

# あべともこニュース



## 健康被害を守る制度の見直しを。

◆薬機法改正、患者報告制度の充実を  
 8日、厚生労働委員会にて「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律等の一部を改正する法律案」（略称：薬機法）について質問。

改正案は、ワクチンや治療薬の有効性確認の為の第Ⅲ相試験の結果が出る前に、「緊急承認」を可能とするもので、副反応集積は使用後になります。従来副反応は、医療機関と製造業者からの情報に基づいて、厚生省副反応検討部会で審議され、患者本人からの報告は参考として扱われてきました。

しかし、コロナワクチンではこの患者からの報告が著しく増加しています。今後は患者報告制度をしっかりと活かす。用するに必ずし、要するに必ずし、摘し、た。



出所:PMDAホームページ



### 衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県 12 区（藤沢市・寒川町）  
 当選 8 回、東京大学医学部卒業、  
 小児科医、あべともこ子どもクリニック（湘南台）理事長  
 現在、厚生労働委員会・沖縄及び北方問題に関する特別委員会委員長、  
 原子力問題調査特別委員会委員



あべともこ  
 公式Twitter  
 @abe\_tomoko

[https://twitter.com/abe\\_tomoko](https://twitter.com/abe_tomoko)



あべともこ事務所  
 公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ

検索

### あべともこ後援会入会及び、ボランティアスタッフ募集中！



出所:厚生省「平成 30 年全国がん登録罹患率報告」(令和 3 年 6 月公表)より阿部知子事務所作成

◆健康被害なかったことには出来ない！  
 7日、原子力問題調査特別委員会で福島の子どもの甲状腺がんについて質問。県民健康調査の結果、この10年で266人と多発、内222人は既に手術で確定しています。政府は「スクリーニング効果」だとか、「過剰診断」であるとして、健康被害そのものを否定。

しかし、国立がん研究センターの統計で、原発事故前は年1、2名程度だった発症数が事故後に増加。発症率比較も以下（左下図参照）に示す通りです。この事実を前に、厚労省は「福島県の子どもの甲状腺がん発生は」全国平均と比較して高い」と答弁。

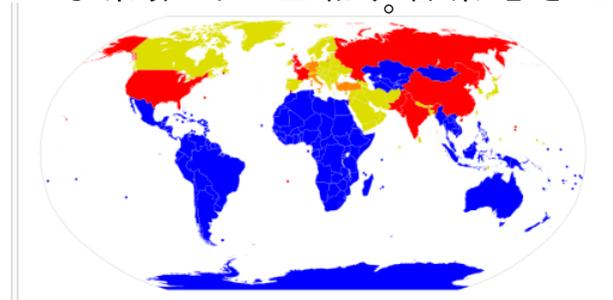
また、担当医師らは学会ガイドラインに従って診療、リンパ節転移が8割あるなどの報告のあることを指摘、務台環境副大臣も「診断や治療が適切に行われている」と認めました。

本年1月27日には、事故当時6歳から16歳で甲状腺癌を診断された若者が裁判に訴えました。「多発」の事実を否定すれば、歴史に恥じることになりません。

◆核共有よりも北東アジア非核地帯を  
 ロシア軍による市民殺戮がウクライナで明らかになり、人々が一刻も早い停戦を願う中、安倍元首相はNATOの「核共有」を持ち出し、日本でも議論をと主張しています。

しかし、諸外国を参考にするならば、東南アジア、南太平洋、アフリカ、ラテンアメリカ、南極で締結されてきた非核兵器地帯条約を北東アジアでも目指すべきです。

日本の平和憲法や非核三原則は新たに締結すべき「北東アジア非核兵器地帯条約」の貴重な礎です。



核兵器拡散状況  
 ■ 核保有国 ■ ニュークリア・シェアリング ■ NPTのみ ■ 非核兵器地帯  
 出所:Wikipedia「非核地帯」